

2、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

① 昨年度の自己点検表を用いて見えてきた課題への取り組み

評価項目	具体的な取組状況
「Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適性」	○沢山の改善策を実践していく ○ノンコンタクトタイムの定着 ○働き方改革

【1回目の自己点検・自己評価を通して】

今年度は「Ⅱ 保育の在り方・幼児への対応」「Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適性」「Ⅶ 保育の在り方・3歳未満児への対応」を重点項目とした。

<7月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

①「Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適性」

昨年度の自己点検表を用いて見えてきた課題であったため、確認のため再度点検を実施した。「保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている」の項目については、課題と感じるとあげる職員が多く、園全体において課題意識が高まってきていることが分かる。今後は改善が図られていくと期待できる。

今年度採用の保育者やパート保育補助者は、業務等の意図や目的などがまだ理解できずにいるため、忘れてしまったり、効率よく進められずにいることも分かった。

②「Ⅱ 保育の在り方・幼児への対応」

「禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている」の項目で、保育の中心となる職員が課題と感じている。この項目に関しては、毎回と言っていいほど課題と感じる職員が多い。まずは、禁止語は絶対使ってはならないのではなく、“安全を優先すべき時や命に関わる時は必要”という事を念頭におき、できるだけ使わないという意識を持つ事が大切である。グループディスカッションにて、“禁止、命令、行動を急がせるような言葉はどのような時に使っているのか？”禁止語を使うべき場面、見守る場面などを整理し、職員間で共通理解を図る為に話し合った。

③「Ⅶ 保育の在り方・3歳未満児への対応」

評価シートの記述部分で、配慮が必要な園児への共通した支援を課題に挙げる職員が多かったため、「指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い、共通理解をもって対応するようにしている」という項目に焦点をあて、“共通理解しなければいけない事は何か？”“共通理解できていないから実践できないのか？共通理解できているが実践できないのか？”“実践するためにはどのようなことが必要か”について話し合い、改善策を考えた。

【グループディスカッションを通して】

<グループディスカッション内容>

～3歳以上児グループ～

①禁止、命令、行動を急がせるような言葉はどのような時に使っているのか？について様々な場面を考える。

②①の禁止語は必要なのか？不必要なのか？について考え、この場面の時はどのように対応しているかについても出し合った。

話し合いの中で、必ずしも禁止語を使用してはいけないという事ではないこと、どのような場面で使う必要があるのかを確認することができた。その上で、子ども達に伝えたことが理解され、納得できたかどうか、注意したことがその後の子ども達の何に繋がっていくのかを意識して考える大切さを共有することができた。今後は各クラスの振り返りタイムや記録をする際のポイントとして、“指導のポイント”を作成。このポイントを意識しながら振り返り、記録をし、深い保育を行っていくことで、職員・クラス間の対応方法を統一することができ、個の成長からクラスの成長まで結び付けていくことを改善策として立てた。

～3歳未満児グループ～

共通理解しなければならない事は、どのようなものがあるか出し合うことで、共通理解しなければならない情報がたくさんあることに気づき、共有した。配慮が必要な園児を例に、本児の課題である食事の面の目標、ねらい、共通理解している事を話し合った。その中で、クラスで振り返りしている情報はたくさんあるが、見やすい記録がないことに気付いた。改善策として、課題である食事に特化した記録を取ることにした。給食献立表に本児が食べたものをマーカーでチェックする方法を9月から実施している。また個人の記録に“食事”に特化した項目を入れ、特に配慮が必要な部分に対して記録し、継続した支援が出来るようにした。

【2回目の自己点検・自己評価を通して】

1回目に引き続き、「Ⅱ 保育の在り方・幼児への対応」「Ⅶ 保育の在り方・3歳未満児への対応」を実施。

<1月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

①「Ⅱ 保育の在り方・幼児への対応」

副担任を中心に、「他の保育者が困っている状況に対し、保育のフォローを自らおこなうことができる」の項目に対する評価が低かった。前回の自己点検・自己評価から比較すると、少しずつ自分の役割を理解できるようになり、成長しているからこそこの項目に気付けるようになったのではと感じる。この機会に、担任がフォローして欲しいと思う場面や副担任がフォローすべきと思う場面について話し合い、気付いている場面と気付いていない場面を整理することで、保育者間の意識統一を図り、保育の在り方幼児への対応を考え、普段の保育に生かせるものが何かを考えた。

②「Ⅶ 保育の在り方・3歳未満児への対応」

「乳幼児の心身の発達および生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えるよう確認している」という項目に対する記述で、“ぬくもりの時間(15時から19時)の遊び”に関する内容があがっていた。また集計表からも“よくできている”をつけている職員がいなかったため、「乳幼児の心身の発達および生活の連続性」を考える際、ぬくもりの時間で大切にしなければならないことは何か？共通理解を持ち、ぬくもりの時間の過ごし方を考えるため、話し合いをした。

【グループディスカッションを通して】

<グループディスカッション内容>

～3歳以上児グループ～

①他の保育者が困り、フォローが必要と感じる場面を出し合う

②フォローが必要と感じるそれぞれの場面でどうフォローすればよいか話し合う

という内容で話し合いを行った。場面が多岐に渡り話し合いが難しい為、“製作活動”に焦点を絞ってフォローすべき場面について話し合った。製作活動ひとつにしても、計画、事前打ち合わせ(計画)、事前準備、事前打ち合わせ(活動内容)、当日準備、活動、片付け、振り返り、事後処理→計画へ戻る…というたくさんの過程があることに気付いた。その中で、計画を担任任せにするのではなく、副担任もアイデアの提案をすることが大切だが、一年の見通しが持てないと考えることが難しい。しかし、見通しが持てるものがないことに気付いた。また、日々の活動について振り返りタイムを行っているが、製作に特化した評価、反省の欄がないため次年度へ繋げにくいという点にも気付いた。

【改善策】

○年間の製作活動リストを作成。リストをもとに、製作予定月のふた月前の月末に製作の提案を担任、副担任互いに行う。前の月の5日までに打ち合わせを行う。

○完成品の製作物を写真に撮り、データで残していく。(R3.2月製作分から実施)

翌年度の保育者が参考にできるよう引き継いでいく。

これらの改善策を行うことで、P(計画)→D(実施)→C(評価・反省)→A(改善)の流れを作り、より良い保育に繋がられるようにしていく。

～3歳未満児グループ～

①“生活の連続性”という部分から、ぬくもり保育の時間帯で大切なことは何か出し合う
 ②①の大切な事を踏まえ、どんな活動ができるか、どんな環境が作れるかなど工夫できることを話し合う
 という内容で話し合いを行った。この中で、ぬくもり保育で1番大切にしなければならないことは、「安全・安心」という事を共有することができた。さらに大切なことを踏まえて、今後ぬくもり保育で取り組みたいことを考え、改善策を立てた。

【改善策】

- 必要な玩具の購入(準備中)
- 絵本類の購入(準備済)
- 遊びや活動について、今回出た意見をぬくもり保育担当者中心に取り入れていく
 これらの改善策を行うことで、ぬくもり保育の時間は子ども達がゆったりと安心できる環境、安全な環境を作り、“ぬくもり”を感じられる時間にしていく。

以上が今年度の評価結果です。

【学校関係者評価委員会メンバー】(敬称略)

アドバイザー：東京福祉大学准教授 鈴木美子

小宮山 仁	南魚沼市教育委員会 管理指導主事	五十嵐 哲也	塩沢小学校 校長
八木 三男治	元小学校長・学校法人監事	大橋 城	当園 PTA 会長
石川 勇希	当園 PTA 副会長	小野澤 宣博	当園 PTA 副会長
事務局	角谷金城幼稚園長	角谷金城保育園長	担当：瀬下教頭 貝瀬主幹保育教諭

3、来年度へ向けて

評価項目	具体的な取組状況
①「Ⅱ 保育の在り方・幼児への対応」	○年間製作リストをもとに、担任・副担任で立案し、打合せを行う。 ○製作物の完成写真をデータで保管し、翌年度へ繋げる。
②「Ⅶ 保育の在り方・3歳未満児への対応」	○ぬくもり(延長)保育の時間は子ども達がゆったりと安心できる環境、安全な環境を作り、“ぬくもり”を感じられる時間にする。 (話し合った取り組みを実践していく)

4、学校関係者の評価

・コロナ禍によって園に入る機会が減り、他保護者と顔を合わせる機会も減った。この現状では仕方がないが、保護者間の繋がりが弱くなり残念。しかし逆に今までは園の様々な行事に参加することで保護者同士の繋がりを強く感じられたのだと改めて実感することができた。塩沢地区は、中学が一つなので小学校で分かれても中学でまた一緒になれる。この繋がりが生かされる時が来るのが強い。そしてコロナが終息し、生活が戻れば今まで通りの良い環境となり、繋がりを作っていけると思う。

・若手保育者が「率先して動けない」ということに自ら気づけたのはすごい。また先輩保育者も本人が良くできたことを伝えようと気配りをされており、良い関係作りができていると感じる。

・公表シートにある苦情解決に関しては、写真業者に対するもので、園の対応についての苦情ではない。園を間に挟んで、大変な思いをさせてしまい申し訳なかった。これがきっかけとなり、今後良い方向に向かっていくことを願っている。

・幼児教育はその後の人生に繋がる大切な時期であり、地域社会との関わりも大きな影響を与える。ノーベル文学賞受賞者である“カズオ・イシグロ”は素晴らしい文筆活動をしているが、『現在の自分を支えているのは5歳の時まで過ごした長崎での経験があるから…』と言っている。幼児の生活や教育がいかに大切かが分かる。

・コロナ禍な中でも、園では子どもと保育者は密接に関わらなければならない。そんな中でたくさんの工夫をして

こられたことがよく分かった。保護者も様々な理解、協力して下さり、これまでの信頼関係の賜物であると感じた。今後もこの地域の良さを生かし、PTA会長はじめ園長などみんなでもっと良い園を作り上げてほしい。

- ・ぬくもり保育については、教育課程では生活の連続性を考えて…とされているが、なかなか着手できていない園が多いのが現状。ここに着目して取り組んでいることは素晴らしい。安心、安全を抽出して確認したという点については私も納得できた。3歳以上児と3歳未満児では互いに生活の時間が異なる。縦の関係で育ち合えるものは何かという点も考えて保育できると良いと思った。
- ・製作年間リストについては、誰もが見通しを持って取り組む事が大切と感じた。昨日と翌日、一週間という短い期間と一年間という長い期間で考える視点を持つことが保育者には求められる。年間リストを作成できたことはとても良いと思う。また計画を保育者同士が互いに考えて提案するというのも素晴らしい。『自分で考える』ということは、とても大切な事。それぞれの考えを出し合う事も大切。このような姿勢を持つことはとても重要である。
- ・これまで長く当園の学校評価に関わらせて頂いているが、“ありのままに、率直に”という姿勢を職員一人ひとりが持っている園であると、ずっと感じている。表裏がない。一つひとつステップを踏みながら育ち合えている。保護者と園との関係性も素晴らしい。
- ・軸となる園長に加え、教頭や主幹保育教諭をはじめ長く勤めている職員が互いにポイントについて話し合うことができ、育ち合えている。この関係性がとても素晴らしい。軸となる職員がいることが大切である。
- ・仕事の「内容を充実させること」「効率をあげること」の両立はどの職場でも難しい課題だと思います。その中で先生方が健康で元気に子どもたちに接して頂ければ、子どもたちも楽しく園生活を過ごせると思う。そのために保護者も協力したい。
- ・一人ひとりの教育ニーズを全校職員が確実に共有し、アプローチは異なっても目指す方向1つにしていくことは学校も同じであるが、様々な課題もつきまとう。まずはその「課題」が何であるのかを共通認識されている点が大変素晴らしと感じる。
- ・より良い保育に向けてPDCAサイクルで丁寧に評価し、職員全員で努力していることは伝わったが、資料が多すぎて「良かった点」「そうでない点」「改善策」が伝わりにくい。学校関係者評価委員会のメンバーが資料を見て、何が良かったのか、そうでなかったのか今後どう取り組むのかが、評価について平均化して一目でわかるようにすると、質問や意見が言いやすくなるのではないか。

5、苦情解決結果報告

令和2年度は1件でした。(2/15現在)

7/4(土)に開催された七夕会の写真撮影を写真業者へ依頼していたが、さくら組の出番を撮らず、帰ってしまい撮影ができなかったことに園側が気付いた。

(さくら組発表後の集合写真撮影時に写真業者がいなかったことで気付く)

写真業者に連絡を取り、事情を聞く。

(全て終わったと勘違いして帰ってしまったとのこと)

さくら組保護者に向けた謝罪説明の手紙を作り、7/6(月)に発行するよう写真業者に依頼した。

7/6(月)に手紙が間に合わず、配布できず。

7/8(水)の朝、ようやく手紙が完成。取り急ぎ、さくら組保護者へ kidsly にて手紙を写真添付したメールを送った。

①【申立者①】

Kidsly で写真添付された手紙を見たが、手紙の内容や書式がちゃんとなっていない。これで事を終わりにするのはいかがなものかと電話で意見あり。(7/8(水)13:00 受付)

【園側より】

→・園よりお詫びの手紙と練習時の写真、当日の写真をプリントアウトしたものを配布(7/10 発行)

・納涼祭は写真業者に依頼せず、職員の一眼レフカメラで撮影する

・8/31 開催予定のPTA 役員会にて、写真業者より謝罪説明する場を設け、今後について検討

以上、3点の対応策を立てた。

②【申立者②】

①の対応策について下記意見があった。(7/15(水)15:36 受付)

- ・今はコロナ禍で保護者参観の人数制限されており、保護者で写真を撮ることが難しいため、納涼祭はちゃんとしたプロの方に写真を撮ってもらいたい
- ・8/31のPTA役員会で検討するのでは遅い
- ・今回のことだけで写真業者を外すのはいかなものか
- ・謝罪よりも記念に残る写真が欲しい

【園側より】

- ・今までも写真業者に依頼していても忘れて撮影に来ないことや時間に遅れることなどあったという事情を説明し、納涼祭の時も同じようなトラブルが起きても園としては責任を取れないと伝える
- ・納涼祭はカメラ専属の職員を配置し、他2名の職員も運営業務と兼務し、写真を撮ることとする
- ・8/31のPTA役員会にて、写真業者より謝罪と今後の方針について説明する場を設け、今後について検討する

【申出者②】

→対応策について了解して頂いた(7/15(水)17:35)

③【写真業者について】

- ・8/31 PTA役員会にて謝罪と今後の方針について説明を受け、その後PTA役員会で検討した結果、引き続き同じ写真業者へ依頼することとなった